

“恐れなくて、ただ信じなさい”

ルカによる福音書 8 章 40-56 節 - 新改訳

大阪インターナショナルチャーチの皆さん、こんにちは！私のことをご存知の方も多いと思いますが、そうでない方もいらっしゃると思います。私はダニエル・ペリーです。大阪には妻と子どもたちとともに合計 23 年間住んでいました。今はアメリカ合衆国のちょうど真ん中辺りにあるカンザス州の教会で牧師をしています。

そこで皆さんと共にいて話ができたと思います。そこで暮らした年月と、皆さんとの特別な交わりを懐かしく思います。皆さんの上に神の祝福がありますように。皆さんのためによく祈っています。

今日はルカによる福音書 8 章 40 節から 56 節までのメッセージを紹介したいと思います。タイトルは“恐れなくて、ただ信じなさい”です。イエスが行った 2 つの奇跡について語ります。ひとつは癒しの奇跡、もうひとつは病気で死んでしまった少女を生き返らせた奇跡です。

40 さて、イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたのである。

41 すると見よ、ヤイロという人がやって来た。この人は会堂司であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと懇願した。

42 彼には十二歳ぐらいの一人娘がいて、死にかけていたのであった。それでイエスが出かけられると、群衆はイエスに押し迫って来た。

43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人がいた。

44 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。すると、ただちに出血が止まった。

45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。大勢の人たちが、あなたを囲んで押し合っています」と言った。

46 しかし、イエスは言われた。「だれかがわたしにさわりました。わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。」

47 彼女は隠しきれないと知って、震えながら進み出て御前にひれ伏し、イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話した。

48 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

49 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」

50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われます。」

- 51 イエスは家に着いたが、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、そしてその子の父と母のほかは、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。
- 52 人々はみな、少女のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてよい。死んだのではなく、眠っているのです。」
- 53 人々は、少女が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。
- 54 しかし、イエスは少女の手を取って叫ばれた。「子よ、起きなさい。」
- 55 すると少女の霊が戻って、少女はただちに起き上がった。それでイエスは、その子に食べ物を与えるように命じられた。
- 56 両親が驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

この箇所から、私たちの生活や他の人々への証しにおいて適用すべき4つの大切なことが読み取れます。

1. 恐れなくて、ただ信じなさい。このことは、先ほど私たちが読んだ二人の登場人物に見られます。
2. 謙虚にイエスのもとに来なさい。
3. イエスがあなたのためにしてくださったことを話すこと。それはあなたの信仰にとって大切なことであり、イエスに栄光をもたらすことです。
4. 赦しと関係修復には、もう手遅れだと決めつけないこと。「遅れてもやらないよりはまし」という慣用句は本当に正しい。

1— 恐れなくて、ただ信じなさい。

これらの出来事はどちらも、恐れと神からの祝福を受けることに関係しています。この女性は、イエスのところに面と向かって来るのを恐れて、イエスの背後にまぎれこみました。しかし、イエスは立ち止まり、彼女を探し出されたのです。

彼女は恐れに打ち勝ち、震えながらイエスのところに来て、皆の前で何が起こったか、イエスがどのように彼女を癒されたかを宣言しました。そして、イエスは彼女を慰め「あなたの信仰があなたを癒した。」とおっしゃいました。

少女の場合、父親がイエスのもとに来たとき、彼女はすでに死にかけていました。彼女の家まで歩いて行くには時間がかかるし、その時イエスには他にやらなければならないことがあるようでした。イエスはすべてを投げ出し、皆を無視し、少女のそばに駆けつけることはしませんでした。知らせが届き「もうお嬢さんは亡くなった。もう先生を困らせないでください。」と告げられたとき、イエスは父親に言われた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば娘は救われます。」

恐れは、私たちが信じないときに生じるものです。ヨハネは最初の手紙の中で、私たちが神を知り、神が私たちに対して持つておられる愛を信じるとき、神の裁きを恐れる必要はないと書いています。

そして、もし私たちが「神の裁き」というキリストの内にはいない人々に起こる最悪のことを恐れる必要がないのなら、何も恐れる必要はないのです。

最悪の事態を恐れていないのなら、他に何を心配することがありますか？ 第1ヨハネ5:18
「愛には恐れがなく、完全な愛は恐れを追い出す」

2 - 謙虚にイエスのもとに来なさい。

ヤイロは地位のある人で、地域の指導者であり、人々の礼拝の責任者でした。しかし、彼は品位に欠ける振る舞いを恐れませんでした。彼の娘は死にかけており、もしかしたらすでに死んでいたかもしれず、彼は絶望していました。

彼はイエスの足元に倒れて助けを求めるようなことはしませんでした。イエスは、お金も家も地位もなく、ゴロツキの弟子たちと路上で暮らしていました。しかし、だからといって、この男はイエスの前にへりくだって助けを求めに来ることを止めませんでした。

ヘブル12:2にはイエスは信仰の創始者であると書かれています。創始者であるということは、イエスがそれを創造したということです。私たちが生まれる前から私たちの人生の物語を書き、私たちの救いについても書かれました。イエスは物語の最後も書かれます。

もし私たちの人生の物語を考え出した主が、他人の前でへりくだり、恥をかくことを恐れなかったのなら、私たちも恐れるべきではありません。

その生涯において、そして特にその死において、裸にされ、鞭打たれ、唾を吐きかけられ、あざけられ、十字架にかけられたイエスのように謙遜でありたいと願いましょう。

これは恥ずかしいことをするという意味ではない。善いことをし、他人が見ている間に神を求め、愚かだと思われても気にしないことです。

実は、クリスチャンとして他人からどう思われるかを恥じるという感覚は、悪魔から来るものなのです。悪魔は、私たちが極端になりすぎないように警告する存在だ。悪魔は、私たちがすべきことをしない合理的な理由を示し、あるいは、すべきでないことをする言い訳を教えます。

例えば、“中絶クリニックの前で、母親と赤ん坊の命のために公に祈れば、(自分自身はもちろんのこと)クリスチャンの印象が悪くなる”。

あるいは、“聖書が本当に神の言葉だと誰かに言ったら、その人はあなたの世間知らずぶりを笑うかもしれない”というのはどうでしょう。

私たちの周りには、霊的な暗闇の中を歩き、神について知らない人が大勢いるのです。

そして、もし私たちが悪者になりたくない、恥をかきたくないという理由でそれを黙っているなら、彼らは暗闇の中にとどまるでしょう。

3ー イエスがあなたのためにしてくださったことを話しましょう。それはあなたの信仰にとって大切なことであり、イエスに栄光をもたらすことです。

旧約聖書の律法には、私たちはもう縛られることはないのですが、女性は月経の時期を迎えると、儀式的に汚れた状態とされていました。また、月経中の女性が触れた人や物も汚れたものとされました。

もしこのかわいそうな女性が12年間も出血していたとしたら、12年間は社会の一員になることができなかったということです。彼女は人から離れなければならなかった。それは彼女にとって信じられないほど恥ずかしく、孤独なことだったのです。

そして、血液中の鉄分が少なくなり、エネルギーが低下し、治療してくれる医師を必死で探そうとしたため、健康が損なわれ、経済状態も悪化していました。

彼女はこの群衆の中にいるはずではなかったのですが、彼女は危険を冒しました。彼女は人ごみが通り過ぎるのを待ちました。彼女は、おそらく頭を覆い、自分の正体を隠そうとしたまま、その中に滑り込み、何人かの人を追い越して手を伸ばし、イエスの衣の裾に触れたのです。

すぐに出血が止まったのが分かりました。彼女は癒されたのです！あとは気づかれないように逃げるだけでした。

そんな！どうなっているのでしょうか！群衆が止まっています。イエスが「誰かが私を触ったのが分かる。私の癒しの力が出て行ったのを感じた」と言いながら群衆の顔を見渡し探られる間、皆静かに辺りを見回していました。

私は、イエスが彼女に、ただ視線を送り、うなずき、目立たないように彼女を解放し、彼女の人生を歩ませることができたと想像します．．．しかし、違うのです。

この大群衆の前で、イエスは立ち止まって、誰が彼に触れたのかを探られました。イエスは誰が彼に触れたかをすでに知っていたと思います。しかし、イエスはそれを知っていたにもかかわらず、立ち止まって尋ねられた。これは、神が私たちに働きかけてくださる方法の一つです。私たちに告白させるのです。それは神にとって重要なことだからです。

考えてみてください。聖書の最初の書である創世記の3章には、最初の男と女がいかに神に背いたかが書かれています。彼らは美しい楽園であったエデンの園に住んでいました。彼らが背いた後、神が歩いて来て、「アダム、どこにいるのか」と言ったと書かれています。神は知っていました。アダムが隠れていることを認めると、神は尋ねました。

ここでアダムはこう言うべきだったのです。「私は間違いを犯し、あなたに背きました。ごめんなさい。」と言うべきだった。しかしアダムはどうしたのでしょうか。アダムはエバを責めました。「あなたが私にくれたあの女は…」と。

神がエバにそのことを尋ねると、エバも同じように、自分を誘惑した蛇を責めました。

神の前で告白するとき、私たちは赦される。私たち人間の傾向として、自分のしたことをごまかそうとします。それは他の人には有効かもしれませんが、神には通用しません。神は、私たちが自分自身を知る以上に、私たちのことを知っておられるからです。あなたがしていること、あるいは考えていることでさえ、神がご存知ないことは何もないのです。

ちょっと怖いですね。でも、それが現実なのです。

さて、良いこと、いや素晴らしいことは、神は私たちを愛してくださるということです。そして、私たちが謙虚に神のもとに行き、自分のしたことを告白するとき、神は赦してくださるのです。東は西から遠く離れているように、それは私たちから遠く離れている。

しかし、告白せず心の奥底にしまい込んでおくと、さらに悪化するのです。

ある時、家の中でネズミが死にました。リビングの天井と2階の寝室の床との間で死んでいたのです。

見える場所ではなかったのです。でも腐敗が進むと、それはひどいものでした。ジルと私は初冬の寒い時期に窓を開けて寝ないといけませんでした。窓を開けていても臭かったです。

最終的に私は、板が組み合わさっている床のひび割れにテープを貼りました。それで臭いは抑えられました。しかし、そのネズミは最終的に家を取り壊すまでそこにいました。

もし床を壊してネズミを追い出すことができたなら、どんなによかったでしょう。私たちが神に告白するとき、神は私たちの汚れた部分を取り除いてくださいます。何も隠そうとしないで、神に取り除いていただきましょう。

その女性は隠れていることはできませんでした。彼女の秘密は暴かれようとしていました。そこで、彼女は震えながらイエスのところに来て、イエスの前に倒れ、自分の問題が何であったかをイエスの前で、そして周りのすべての人々の前で宣言しました。

彼女が公に告白したことで、癒しは確固たるものとなりました。彼女は体で感じただけでなく、すべての人々の前でそれを宣言したのです。そしてイエスは彼女に言われた。「安心して行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」と。

4 - 赦しと関係修復には、手遅れだと決めつけないこと。「遅れてもやらないよりはまし」という慣用句は本当に正しいのです。

イエスはその女と話しておられたとき、ヤイロの家の人たちが来て「お嬢さんは死んだ。これ以上イエスに迷惑をかけるな。」と言いました。ヤイロは何も言えませんでした。

イエスはそれを聞いて、すぐにヤイロに答えられた。「恐れることはない、ただ信じなさい。」

人々は手遅れだと思い込んでいた。

しかし、イエスは少女のために不可能を可能にされました。

「もう手遅れだ」と言う人に会ったことがあります。彼らは、神が決して赦してくださらない、修復できないことをしたと思っているのです。神が彼らを助けることができる唯一の存在であるにもかかわらず、彼らは神の助けを求めようとしません。

ヴィック・ペンツの物語を読みました。ハンプティ・ダンプティからいつも連想される絵は、大きな卵の男でした。彼は顔があって服を着ていましたが、体は大きな卵でした。卵が落ちる時のように、彼は割れてしまいました。小さな童謡を聴いてみましょう。

ハンプティ・ダンプティは壁の上に座っていた。

ハンプティ・ダンプティは見事に転んだ。

王のすべての馬と王のすべての男たちは

ハンプティを元に戻すことはできなかった。

しかし、王はハンプティが倒れたことを聞き、深く心を痛めました。農民の服に身を包んだ彼は宮殿を出て、ハンプティを探して通りをさまよったのです。

3日後、王は彼を見つけました。彼の身体は裏路地の3メートルほどの円形に散乱し、割れたガラスや平らになったビール缶に囲まれていました。

「ハンプティ！私だ、君の王だ！お前を元に戻せなかった馬や男たちよりも偉大な力を持っている。安らかに。私は助けに来たのだ。」

ハンプティは不機嫌そうに言いました。「ほっといてくれ。もうこの生活には慣れたし、このままがいい。あそこにあるゴミ箱も、割れたガラスに日が当たってキラキラしているのも。ここは世界の庭に違いない。」

王は言った。「しかし、私の王国にはこれ以外にも、緑の山々、なだらかな波、エキサイティングな都市といったものがたくさんある。」

しかし、ハンプティはそれを聞こうとしませんでした。悲しいことに、王様は去って行きました。

しかしわずか1週間後、彼は再びやって来て「助けに来たんだ。」と真剣に言いました。

「ほっといてくれ。」とハンプティは言い返しました。「精神科医に診てもらったところだ。医者はよく頑張ってると言ってたんだ。」

王は「でも、歩きたくはないのかい？」と尋ねました。

「一度立ち上がって歩き始めたら、ずっと立ち上がり、歩き続けなければいけないだろう。今の時点では、そんな覚悟はできていないんだ。」

悲しいことに、王は去っていった。それから1年後、王は再びやって来た。

今度こそ、ハンプティは準備ができていた。王様の確かな足取りが聞こえると、王様の方に目を向け「我が王！」と言いました。

王はすぐさまガラスに覆われた舗道にひざまずき、ハンプティの破片をそっと拾い集め、元通りに組み立て始めました。

しばらくしてから王は立ち上がり、ある人物を引き寄せました。

ふたりは手をつないで王国中を歩きました。緑の山々の上に立ち、押し寄せる潮の中や浜辺を走ったり、煌びやかな都市を巡ったりしながら、ふたりは笑い、冗談を言い合いました。

二人の友情に終わりはありませんでした。ある時、二人で歩いていると、ハンプティは新しい生活への喜びと路地裏の苦い思い出で胸が躍るような言葉を耳にしました。誰かが言いました。「あの二人は誰？」

「左にいるのは年取ったハンプティ・ダンプティだよ。右にいる人は知らないけど、確かに兄弟みたいだね！」

遅すぎるということはありません。これは私たちにとって素晴らしいニュースであり、他の人たちと分かち合うための素晴らしいニュースなのです。

そして、聖霊が私たちのうちに働けば働くほど、私たちはイエスに似てくるのです。その小さな物語に描かれていなかったのは、聖霊が私たちの中でどのように働き続けているかということだ。まだ終わっていないし、終わるまで主はやめないのです。

今日、ここから何を学んだか：

1. 恐れることなく、ただ信じること。
2. 謙虚にイエスのもとに来ること。
3. イエスがあなたのためにしてくださったことを話すこと。
4. 赦しと関係回復のためには、もう手遅れだと思わないこと。

祈りましょう。